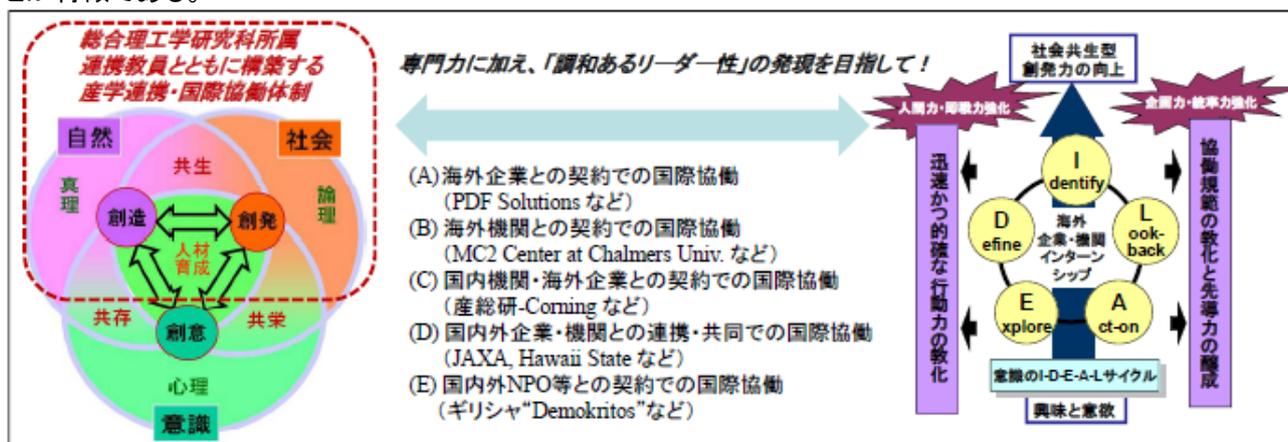


**産学連携による実践型人材育成事業 ―長期インターンシップ・プログラム開発―  
最終評価結果**

大 学 名	東京工業大学
プロジェクト名称	社会共生型創発力を育む産学連携実践教育
事業責任者	大学院総合理工学研究科・教授 小田原 修

**事業概要**

本事業は、起承転結型のプロセスを咀嚼できる、リスクマネジメントとシステム融合に優れた人材を育成することを目的としており、博士後期課程学生を主な対象に、産学の連携協力による海外企業・機関を主な受入先とした長期派遣型プログラムを通して、社会との共生に繋がる“創発能力”を強化する実践教育を行うものである。海外への派遣に対するリスクマネジメントに対応するため、海外企業・機関との国際協働体制を構築したことが特徴である。



詳細については、<http://www.igs.titech.ac.jp/ipер/index.html> を参照。

**最終評価結果**

(総合評価) A : 所期の計画と同等の取組が行われた

**コメント**

《優れた点》

- ・ もともと存在していた強力な産学連携システムを活用したとはいえ、博士後期課程の学生でなければ難しい海外インターンシップ・プログラムの開発や、社会を教育の場として活用するシステムの構築を行って事業を推進し、それを継続できる形とした点が評価できる。
- ・ 海外における多様な受入先を開拓し、社会の課題解決型テーマのもと、産学連携による海外インターンシップを実現させた点が優れている。
- ・ 教育目的での海外企業・機関との産学連携は、目的、システムや制度、期間や契約問題等、1件1件異なる問題が存在するが、海外への派遣に対するリスクマネジメントを適切に行い、国際協働体制を構築したことを評価したい。
- ・ 長期インターンシップに関してシンポジウムを開催して他大学との情報交換や連携を図った点が良い。

《今後に期待する点》

- ・ 厳しい制約条件はあったが、参加学生数が限られていた点は課題である。
- ・ 事業報告等に際して具体的な事例での説明が少なかったため、本事業を一層「見える化」してほしい。
- ・ 事業の目的を達成するには長期のインターンシップが必要であり、さらに十分な派遣期間を設けるよう検討してはどうか。
- ・ 人材育成像をより明確化し、IDEAL の効果を示す指標の検討や、インターンシップに送り出す学生への目標の設定とそれに基づく評価を行って欲しい。
- ・ 今後は経済社会のグローバル化が一層進むことが予測されるため、国際連携の場を教育に生かす先進的な事例として、他大学のモデルとなることが期待される。